

えたら、これ以上ずっと行ったら、我々の計算だと、2015年まで、このまちはもたないというのが正直な考えなんです。ですから、それまでにはそういうふうな形で資産を売っていく。それしかない。ですから、それにならないために、いろんな企業さん、こちらに移転してくれればというのが、やっぱり最大の期待をしていることです。

○中井議員 IBAエムシャーパークの事業の延長線上に、環境を整えた上での企業誘致というのは、やっぱり戦略をお持ちなんですか。

○説明者 もちろん市としては、IBAのプロジェクトには大きく参加した市町村の1つなんです。エムシャー地域というのは、19世紀から大工業地域でしたから、そのため河川が河川ではなくて、地上下水として使われていたというひどい状態だったわけですね。

市としては、この河川をもうちょっとよくしたいんです。今でも、フィルターシステムを通じてそれに寄与しようと思っております。

○中井議員 午前中の視察で、エムシャーのことは聞かせてもらいました。多額の予算を投じての事業だというのは理解できたんですが、その戦略目標に、やはり企業誘致をするために、特に力を入れてやろうと、こういうふうなお考えなんですか、自治体として。

○説明者 これは第一の目的は、エッセン北地域、一番北の、まず自然を取り戻そうというのが、第一のコンセプトです。それで自然を取り戻したら、当然人が帰ってくるだろう。あるいは企業なんかも、なかなかすばらしい景観じゃないかということで帰ってくるだろうと、こちらの方に興味を持ってくれるんじゃないかというのが目的というか、そういうもくろみでした。

市としては、そういうことをやらざるを得ないんです。我々のように赤字状態だと。やらなきゃいけないんです。そうしないと、もっとひどい状態になっていくわけです。

○池田議員 失業者対策のことについて聞きたいんですけど、失業者16%ぐらい。人口61万人で、約10万人ぐらい。たしか、僕の調べでは、外国人が10%ぐらいいたと思うんですけど。

○説明者 もちろんそうです。それはあっています。ルール地方というのは、ドイツの中でも、平均率もどこの州でも出しているんですけども、最も高い失業率をつけています。

もっと問題なのは、失業してから1年とか半年という方が多いのではなくて、もう5年も職がない、10年も職がないという長い間、失業者だった人が多いのが特徴なんです。ほかの州に比べると。

当然、日本のように島国じゃないので、いろんな人種が入り乱れているわけです。外国人は失業者になる確率が非常に高いので、それを抱えている家庭、子ども達の教育とか、そういうものが全部立ちおくれるわけです。そうすると、最終的にドイツの社会に順応できないという、また福祉的な問題が生じます。

○土師議員 きょうの話聞きまして、よくわかりました。もちろん組織であるとか、そうい

うような体系的なものの違いというのがありますが、環境政策における先進事例、これが非常にすばらしいと思います。もちろん行財政改革、こういうことも関係するとは思いますが、都市イメージの向上が一番大事であって、少子高齢社会の中において、要するに我々が学ぶべきところは環境政策と都市イメージの向上が大切であると思います。

IBAは10年計画で、ほぼ今終了していますが、今後の展開を教えてください。

○説明者 まちの中心に大きな、今、プロジェクトがあるんです。まず中央駅、そこにあります。見えますか。あそこにペレギュラー広場という広場になっているところがあるんです。あそこに大きな緑地、パークですね、公園ができます。公園だけじゃなくて、住環境もそこにつくってしまおうと。その横に、大きな、今建築中なんですけれども、ショッピングセンター、これはドイツの中では、規模としては最も大きなショッピングセンターになります。つまり町中で生活して、そして職場、この両方の意図を持った住空間です。

アルフレッド・クルップの母体が、ここにまた戻ってくるときも、ちょうどあその後ろで、インフラが新しいまちと隣り合わせになっているということです。

○土師議員 ということは、結論としては、中心市街地の活性化、これが、要するに今後の政策ということなのですね。

○説明者 おっしゃるとおりです。全く中心ということで。

エッセンというまちは、こういう特徴がありまして、まちの中心に住んでいるというのは、比較的所得の人が多いです。お金持ちの人は郊外に、緑のたくさんあるところに住んでいるんです。それではいけないということで、住環境、職場、これを1つに持ってきたまちの中に住みましょうよというようなコンセプトが、まち中心地再開発、これに含まれているわけです。

○西議員 さっきの、赤字額15%ということは、大幅なコストカットが必要なことなんですけれども、先ほど、VISAコントロールというのが出ていましたけれども、あそこで余ったお金というのは、リセットされて次年度予算に入るのか、リセットされて同じ部局の予算に入るのか、余っているお金の使い道を教えてください。

○説明者 これは、当然、出た余剰金というのは、先ほど言ったように、負債をたくさん抱えているまちですから、今度、主流の方に継承されていくわけです。部署に戻ることは一切ありません。

○水谷議員 きょうはありがとうございました。